

教皇レオ14世 聖年を閉幕



教皇レオ14世は1月6日、バチカンの聖ペトロ大聖堂の「聖なる扉」を閉じて、聖年を公式に閉幕させた（CNS）

国際

- 教皇14世、聖年を閉幕 1・2面
- 米国がベネズエラ大統領拘束 教皇と現地司教団、懸念表明 3面
- 聖フランシスコ没後800年 教皇、記念の特別聖年を公布 3面
- 教皇の一般謁見講話 4面
- 真の幸福は神に愛されていること 教皇、「お告げの祈り」で 5面
- 国際記事ダイジェスト 5面

国内

- 聖年閉幕ミサ（長崎教区／大阪高松教区／東京教区） 6面
- 地震から2年迎えた能登 大みそかと元日に被災地巡礼 7面
- 日韓の教会が支援する「長生炭鉱」遺骨収集事業前進 7面
- 国内記事ダイジェスト 8面

- 主日の福音解説 9・10面
- 短歌・俳句・図書紹介・きょうをささげる（2月の祈り） 11面
- 計報・告知板・番組 12面

オンラインで日々ニュースを配信している「カトリックジャパンニュース」のダイジェスト紙、月刊「カトリックジャパンダイジェスト」をお届け致します。本紙は無料です。

カトリックジャパンニュース



カトリックジャパンダイジェスト 第10号
発行＝カトリック中央協議会広報部
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
電話(03)5632-4435 FAX(03)5632-7030

国 際

神の恵みは力に支配されない 教皇、希望の聖年を閉幕させる

【バチカン1月6日CNS】神の恵みと友愛、新しい夜明けを迎える意志を、力や暴力でねじ伏せることはできないと、教皇レオ14世は強調する。

「私たちが目の当たりにしているのは、ゆがんだ経済があらゆることから利益を搾り取ろうとするありさまで。市場経済は、探し求めて、旅をして、再出発しようという人の望みを単なるビジネスにしています」と教皇は1月6日、「主の公現」の祭日に、バチカンの聖ペトロ大聖堂でささげたミサで指摘した。このミサで希望の聖年は公式に閉幕した。

「自問してみましょう。私たちは聖年の教えによって、あらゆるものを商品にして、人間を消費者にするだけの効率主義から抜け出せたでしょうか」と教皇レオは問いかける。「この聖年を終えて私たちは、訪れる人を巡礼者として、見知らぬ人を探求者として、遠くから来た人を隣人として、自分と違う人を旅の仲間として認めることができるようになるでしょうか」

教皇レオはミサの前に、同大聖堂の「聖なる扉」の敷居に立ち、両側の扉を引いて閉じた。聖なる扉は次の聖年まで封印される。2033年になると見込まれる次の聖年では、イエスの死と復活から2000年を祝う。

ローマの4大聖堂で最後の扉が閉じられたが、神のいつくしみの「門」は決して閉ざされることはない、と教皇は聖なる扉を自ら閉じる前に強調した。神は「常に疲れた人を支え、倒れた人を助け起こして」、ご自分に信頼する人々に「良いもの」を与えてくださると、教皇は付け加えた。

主の公現は「無償のたまもの」

教皇レオ14世はミサの説教で、聖年の間にローマを訪れた数百万の巡礼者たちを現代の「東方三博士」になぞらえた。

「そうです。東方の三博士は現代にもいます。その人たちは、今の時代のように多くの意味で不都合や危険を伴う世界で、あえて旅をする困難を顧みることなく、出か

けて行って探す必要を感じているのです」
ただ、教皇レオは注意を促す。現代の探求者も、今日の教会や聖地に、ベツレヘムで東方三博士が見いだしたのと同じ、いのちと希望と喜びの謙遜な源を見いださなくてはならない。

「とても大切なことは、教会の扉をくぐる人々が、生まれたばかりのメシアをその中で感じ取り、集まっている共同体の中で希望があふれて、いのちの物語が紡がれるのを認めることです」と教皇は強調する。

「イエスは全ての人と出会い、ご自分のそばに近づかせました」と教皇レオは続ける。「主はご自分の存在を私たちの間でもっと知らせたいと望まれています。私たちと共にいる神となられたいのです」

「これは売り物ではありません。東方の三博士たちが拝んだ幼子の善は値踏みなどできず、計り知れないのです」と教皇は説明し、人間の自由と真の豊かさを求める望みを利用し、商品化させようとする「ゆがんだ経済」を批判した。

神がご自分を人間として示された「主の公現」は「無償のたまもの」と教皇レオは強調する。「主はご自分を現され、ご自分を見いださせたのです」



教皇レオ14世は1月6日、バチカンの聖ペトロ大聖堂の「聖なる扉」を閉じて、聖年を公式に閉幕させた(写真⑤)。写真右上は、「聖なる扉」を閉じる前に、ひざまずいて祈る教皇。右下は前日の1月5日、「聖なる扉」をくぐる巡礼者たち (CNS)

米国がベネズエラ大統領拘束 教皇と現地司教団、懸念表明

【ローマ1月4日OSV】教皇レオ14世は、米国による大規模攻撃でベネズエラのニコラス・マドゥロ大統領と妻のシリア・フロレス氏が拘束されたことを受けて、「深い懸念」を表明した。

教皇は1月4日、バチカンのサンピエトロ広場に集まった人々と共に「お告げの祈り」を唱えた後、「大切なベネズエラ国民の幸福が他のあらゆる重要な案件よりも優先されて、暴力の克服につながり、正義と平和へ向かう道が追求されますように」と訴えた。

教皇はベネズエラを同国の保護者であるコロモトの聖母マリアや最近列聖されたばかりの聖ホセ・グレゴリオ・エルナンデスと聖カルメン・レンディレスに委ねて、カトリック信者に祈りを呼びかけ、ベネズエラの自治権と自決権を尊重する必要性を強調した。

「同国の主権が保障され、憲法で定められた法の支配が確保されて、全ての人の人権と市民権を尊重し、協力と安定と調和による平穏な未来を共に築き上げる働きの中で、困難な経済状況のために苦しむ最も貧しい人々への特別な配慮が求められます」と教皇は付け加えた。

数カ月にわたって緊張が続いていた中、米国のドナルド・トランプ大統領は1月3日未明、ベネズエラに対する軍事作戦を命令し、マドゥロ大統領と妻を拘束して、「麻薬テロ攻撃」の容疑でニューヨークに連行させたと、AP通信は報じている。

APによると、ベネズエラ政府関係者は米国による攻撃で多くの死者が出たとしているが人数は明らかにしていないという。

司教団は「平静と知恵と勇気」願う

この攻撃に対する世界の反応は割れている。特に国外に避難しているベネズエラ国民など、多くはマドゥロ大統領の拘束を歓迎しているが、米国の攻撃は国際法違反だとして懸念を表明する声も上がっている。

ベネズエラ司教団はSNSのインスタグラムとX（旧ツイッター）で、短い「神の民への寄り添いと親しみのメッセージ」を発表したが、

マドゥロ大統領と妻の拘束には言及せず、「私たちの民の一致のための祈り」を促している。

「わが国が今日体験している出来事を前にして、私たちは神に全てのベネズエラ国民に平静と知恵と勇気を与えてくださることを願いましょう」と同司教団は呼びかける。「私たちは負傷された方々と亡くなられた方々のご遺族に連帯しています」

アルゼンチンやメキシコの司教団など他のラテンアメリカ諸国の司教協議会も同様の声明を発表している。

メキシコ司教協議会は、「私たちはベネズエラ司教団と祈りのうちに一致して、神がベネズエラ国民に平静と知恵と勇気を与えてくださるよう願っています」と述べている。



1月4日、コロンビアの首都ボゴタの教会前で、隣国ベネズエラの国旗を掲げて同国の民主的政権移行を求めるコロンビア在住のベネズエラ人たち（OSV）

聖フランシスコ没後800年 教皇、記念の特別聖年を公布

【アッシジ（イタリア中部）1月13日OSV】教皇レオ14世はアッシジの聖フランシスコ没後800年を記念する特別聖年を公布した。聖フランシスコによる平和と聖性と被造物のケアを促す不朽のメッセー

ジを強調する。

バチカンでは、1月10日に教皇庁内教院が発表し、フランシスコ会家族が公表した教令によって、2026年1月10日から27年1月10日までの1年間を聖フランシスコの特別聖年として公布した。

特別聖年の間、カトリック信者は通常 conditions を満たすことによって全免償を与えられるが、さらに全世界のフランシスコ会系の教会への巡礼や貧しい人や家から出られない人による霊的な巡礼への参加も特に条件に加えられる。

教皇レオ14世はアッシジでの聖年の開幕を記念する手紙で、聖フランシスコによる証しは、「途切れることがないかのように思われる多くの戦争や不信と恐怖を生み出す社会内部の分裂」や環境破壊によって傷ついている現代にあって、緊急に必要とされていると強調している。

特別聖年では、アッシジで主要な行事が催され、今春には聖フランシスコの遺体が初めて一般に公開されるため、多数の巡礼者の来訪が見込まれている。

教皇レオ14世の「フランシスコ会家族総長への手紙—アッシジの聖フランシスコ没後800年にあたって」と教皇庁内教院による「アッシジの聖フランシスコ没後800年の特別聖年に与えられる免償に関する教令」の邦訳全文は、カトリック中央協議会のウェブサイトで見られる。



昨年11月20日、イタリア中部アッシジの聖フランシスコ大聖堂内の聖フランシスコの墓前で祈った教皇レオ14世とフランシスコ会士たち（CNS）

「フランシスコ会家族総長への手紙—アッシジの聖フランシスコ没後800年にあたって」邦訳全文→

「アッシジの聖フランシスコ没後800年の特別聖年に与えられる免償に関する教令」邦訳全文→

国際

教皇の一般謁見講話

第2バチカン公会議の重要性

【バチカン1月7日CNS】第2バチカン公会議の教えは、今でもカトリック教会が従うべき「導きの星」だと教皇レオ14世は語る。

その会議での教えを読み返すことは「この教會的な出来事の素晴らしさと重要性を再発見するための貴重な機会です」。なぜならその教えは「現代の私たちにとっても方向を示す基準」であり続けるからだ。と教皇は1月7日、説明した。

「私たちは奉仕者としての観点から、教会の改革をさらにより完全な形で実現していかなければなりません。現代の課題を前にして、私たちは時のしるしを注意深く解釈し、福音を喜びをもって告知らせ、正義と平和を勇気をもって証しする者であり続けるように招かれています」とパウロ6世ホールで行われた一般謁見のために集まった人々に語りかけた。また教皇は、1月6日に聖年が閉幕したことを受けて、今回の

一般謁見から第2バチカン公会議をテーマにした新しい講話を始めると発表した。

発布から60年、公文書を読み直す

同公会議は、1962年から65年にかけて4回の会議を行い、16の文書を発表した。その内容は、典礼から聖書、宣教活動からエキュメニズム（教会一致運動）と諸宗教との関係、聖職者と信徒の役割から信教の自由にまで及ぶ。

「第2バチカン公会議は、キリストのうちに私たちを神の子となるようにと招く御父としての神のみ顔を再発見しました」と教皇レオ14世は強調する。

同公会議はカトリック教会を「交わりの神秘、神とその民の一致の秘跡として見いだしました。そして、救いの神秘と神の民全体の行動的かつ意識的な参加を中心に据えて、重要な典礼改革を始めました」と教

皇レオは説明する。

過去60年の間、これまでの教皇たちは、同公会議とその教え、より完全な実施の重要性を繰り返し説いてきた。

しかしながら、60年という月日がたつということは、「第2バチカン公会議を知る司教、神学者、信者の世代が今はいなくなっている」ことも意味すると教皇は危機感を表す。

『伝聞』やこれまでになされた解釈を通してではなく、公会議文書を読み直し、その内容を考察することを通して、第2バチカン公会議を改めて詳しく知ることが重要です」とこのテーマを選んだ理由を説明し、講話を締めくくった。



1月7日、バチカンのパウロ6世ホールで行われた一般謁見の後、若い男性を抱き締める教皇レオ14世（CNS）

教皇の一般謁見講話

神のことは日々聞くこと

【バチカン1月14日CNS】キリスト者が神について語ろうとするなら、毎日、毎週、祈りと典礼のうちに神のことは聞く時間を設けなければならない、と教皇レオ14世は強調する。

祈りのうちに、「私たちは主との友愛を生きて、育むように招かれています」と教皇は1月14日、バチカンのパウロ6世ホールで開いた一般謁見で語った。

「このことは何よりも、典礼と共同体の祈りのうちに実現します。典礼の祈りの中で神のことは何を聞くかを決めるのは私たちではありません。むしろ、神ご自身が教会を通して私たちに語りかけてくださるのです」と教皇は説明する。「さらに、内面的に心と思いの中で行われる個人の祈りの中でも、それは実現します」

「キリスト者の過ごす一日、一週間の中で、祈りと黙想と考察に充てる時間を欠くことがあってはいけません」と教皇は続ける。「私たちは神と語るときに初めて、神について語ることができるのです」



1月14日、一般謁見の終わりに、参加した人々にあいさつして回る教皇レオ14世（CNS）

「神との友愛こそが私たちの救い」

教皇レオは聖年を終えた直後の前週の一般謁見から新しく、第2バチカン公会議についての連続講話を始めていた。

今回の講話では、同公会議の公文書『神の啓示に関する教義憲章』について話し、この『教義憲章』は「公会議の最も美しく重要な文書の一つです」と切り出した。

1965年に発表された同憲章は、「キリスト教信仰の根本的な点」を強調していると教皇は指摘する。もはや目に見えず、遠く離れた神ではなく、人となられた「イエス・キリストは、人間と神との関係を根

底から変容させます」。

そのあふれる愛から友に対するように、主は「人々に語りかけ、彼らと話を交わすのです。それは、人々をご自分との交わりへと招き、この交わりのうちに受け入れるためです」と教皇レオは説明する。「新しい契約のただ一つの条件は愛です」

この契約は永遠に続き、「何も私たちが神の愛から引き離すことはできません」と教皇は強調する。「神の啓示は、友愛に基づく対話のような性格を帯びています。そしてそれは、人間的な友愛の経験の中で行われるのと同じように、沈黙を許さず、真実なことは交わすことによって培われます」

教皇レオは説明を続ける。「こうした観点から、私たちが培うべき第一の態度は、聞くことです。それは、神のことが私たちの思いと心のうちに浸透できるようにするためです。同時に私たちは神と語るように招かれます。しかしそれは、神が既に知っておられることを神に伝えるためではなく、私たちが自分自身に対して明らかにするためです」

「イエスが友となるようにと私たちが招いてくださるなら、この呼びかけを放置してはいけません」と教皇は注意を促す。

「この呼びかけを受け入れ、この関係を育んでください。そうすれば、私たちは神との友愛こそが私たちの救いであることを見いだすのです」と教皇は講話を結んだ。

国際

教皇「お告げの祈り」での言葉 真の幸福は神に愛されていること

【バチカン1月18日OSV】承認、大衆の賛同、注目度は現代の社会において、しばしば過度に重要視されており、人々の考えや行動、自己理解さえも形成してしまうほどだ、と教皇レオ14世は1月18日の「お告げの祈り」の言葉の中で警鐘を鳴らした。それによって、脆弱で最終的に失望に至る個人的な苦しみ、社会の分裂、人間関係へとつながりかねないと、教皇は警告する。

それらを求めることは、「幸せの代わり」を求めるだけ。真の充足は過ぎ去っていく成功や名声の上に築かれるのではなく、それぞれの人は神に愛され、必要とされていると信じることの中にある、と教皇は説いた。「承認、賛同、注目度は、しばしば過度に重要視され過ぎています。人々の考えや行動、その内面の生き方さえも形づくって

しまうほどです」。サンピエトロ広場に集まった訪問客と「お告げの祈り」を唱える前に、教皇は語った。

「それによって苦しみや分裂が引き起こされ、不安定で、失望し、閉じこもってしまうようなライフスタイルや人間関係が出来上がっています」

日々「荒れ野へ下る」時を持つ

教皇レオはこの日の福音箇所(ヨハネ1・29-34)のイエスと洗礼者ヨハネからの教えを取り上げ、神は劇的な示し方で人々に印象を与えようとするのではなく、人の苦しみに寄り添い、その重荷を分かち合ってくれると指摘。そうした神の現存が、全ての人の持つ生まれた価値と尊厳を明らかにする、と説明した。

「私たちの喜びとおおらかさは、成功や

名声といった過ぎ去っていく錯覚の上に築かれるものではありません。私たちは天の御父に愛され、必要とされていると知ることの中にあるのです」

教皇レオ14世は信者たちに、教皇が言う「神の現存」に注意を払いつつ、見かけやうわべだけの目標に気を散らさないように、と注意を促した。

「洗礼者ヨハネが教えたようにいつも目を覚まして、単純さを好み、自分の言葉に誠実で、質素に生き、思いと心の深みを増していきましょう」と励ました。

教皇は続けて「本質的なものを大事にして、日々可能であれば、立ち止まって静かに祈り、黙想し、耳を傾ける特別な時間を設けましょう。言い換えると、主と出会い、共に続けるために『荒れ野へ下る』時を持つのです」

「お告げの祈り」の後、教皇は、晴れ渡ったローマに集まった信者たちに、「キリスト教一致祈祷週間」が始まったことを告げた。同週間は1月18日から始まり、25日まで続く。

イスラエル、NGOの認可剥奪 ガザでさらなる人道危機の恐れ

【エルサレム1月2日OSV】イスラエルのディアスポラ問題・反ユダヤ主義対策省は、国際カリタスとカリタスエルサレムを含む37の国際支援団体の認可を取り消し、3月1日までにパレスチナ・ガザでの活動を中止するよう求めた。

同省によると、これらの支援団体は、新たに設けた規則の安全性と、職員の素性や資金源や活動内容の完全な報告を求める透明性の要件を満たさなかったとして、1月1日時点で認可を取り消された。

欧州連合(EU)と国連は、この動きを非難し、ガザでの人道状況がさらに悪化するのではないかと懸念を表明した。ガザでは2年に及ぶ戦争のため、ほとんどの市民が家を失い、多くは冬の寒さが厳しくなる中、テントで生活している。

12月30日に発表された10カ国の外相による共同声明も、ガザが「壊滅的」で「さらに深刻な人道危機に陥る」可能性を警告した。

ラテン典礼エルサレム総大司教座を含む教会の指導者たちは、カリタスエルサレムはイスラエルとの公式な合法的合意の下で活動しており、今後もその使命を継続していくと述べた。



記事全文



2025年12月31日の大みそかに、ガザ北部のジャバリアで、戦争によって破壊された住居のガレキの近くに張られたテントからこちらを見る、家を失ったパレスチナの子どもの写真。イスラエルは12月30日に、国際カリタスを含む、数十の人道支援団体の活動を停止させると発表した(OSV)

教皇、幼児洗礼は「必要不可欠」「いのちを生きる意味は、信仰」

【バチカン1月11日CNS】子どもたちに洗礼を授けることは、食べる物と着る物を与えることと同じように必要不可欠だと、教皇レオ14世は保護者たちに語りかけた。

「子どもたちは、ご両親からいのちを与えられたのと同じように、今、このいのちを生きる意味、すなわち信仰を与えられます」と教皇レオは1月11日、「主の洗礼」の祝日に、バチカンのシスティーナ礼拝堂で洗礼の秘跡にあずかろうとしている20人の新生児について語った。「何が善で、本質であるかを知ると、私たちはすぐに愛する者のためにそれを求めます」と教皇は短い説教で強調した。

「実際、私たちの誰が、生まれたばかりの子どもを、大人になって着る物と食べる物を選ぶのを待って、着る物と食べる物なしに放置するでしょうか」と教皇レオは問いかける。

「着る物と食べる物が生きるために必要であるなら、信仰はそれ以上に必要です。なぜなら、人生は神によって救いを見いだすからです」と教皇は続けた。



記事全文

教皇、傾聴の重要性を強調する 臨時枢機卿会議で性虐待に言及

【バチカン1月12日CNS】どのような立場にあっても教会の指導者たちは、全ての人、特に性虐待の犠牲者や苦しんでいる人々に耳を傾ける能力を磨き、改善していかなければならない、と教皇レオ14世は力を込めて語る。

カトリック教会での性虐待の問題は、「多くの地の教会生活において真の意味での傷となっています」。この危機や被害者たちに「目と心を閉ざしてはなりません」と、1月7日から8日にバチカンで開催された、世界中から招集した枢機卿らとの臨時枢機卿会議の閉会の言葉で、教皇レオは強調した。

「犠牲者の苦しみは、それが受け入れられることも耳を傾けられることもなかったという事実によって、いっそう大きなものとなっています」と1月8日に教皇は語り、1月10日にバチカンがこのあいさつを公表した。



記事全文

国内

聖年閉幕ミサ

「希望の巡礼者」をテーマとした聖年は、世界の教区で2025年12月28日に閉じられた。日本でも全15教区で同日、閉幕ミサがささげられた。三つの大司教区（長崎、大阪高松、東京）の閉幕ミサを紹介する。

長崎教区 被爆80年に祝った聖年 「平和作文コンクール」受賞者を表彰



長崎・浦上教会でのミサ閉祭時、中村大司教は世界代表司教会議（シノドス）のテーマ「ともに歩む教会のためー交わり、参加、そして宣教」に沿い、「これから私たちはともに参加していくぞー」「交わっていくぞー」「福音宣教を行っていくぞー」と発声。参加者も「いくぞー」と応え、拍手の後、派遣の祝福が行われた（提供＝長崎教区）

「まことの『希望の巡礼者』である主は、これからも、わたしたちとともに歩むために、わたしたちを抱きしめながら、わたしたちとともにいてくださる」

長崎カテドラル浦上教会での聖年閉幕ミサで、同教区の中村倫明大司教は、聖堂を埋めた750人の参加者にそう語りかけた。

2025年は被爆80年と重なった。同教区は教区所属の信徒・求道者の小学生、中学生、高校生を対象に「平和作文コンクール」を実施。審査の結果選ばれた11人がこのミサの中で表彰された。最優秀賞を受けた3人の1人、小学校3年生の片山愛理さんは曾祖父母が長崎、広島で被爆。作文の中で、「ひばく者がいなくなったらその原爆のことはだれが、語るのですか？ それはそう。もちろんわたしたちです」とつぶっている。

ミサには、教区内で聖年巡礼指定教会となった25教会全てを巡礼した人々（総勢253人）の一部も各地から集った。認定書と共に記念の貝＝写真＝を受け取っている。貝は長崎近海で採れたヒオウギ貝。スペインの著名な巡礼地を訪れる人々がホタテ貝を巡礼者のしるし、お守りとしていることにちなみ、担当者が手作りした。



大阪高松教区 聖年と万博 宣教の機会に 有志によるコンサートも開催

大阪高松教区では、聖年の2025年に大阪・関西万博が開かれた。大阪高松カテドラル玉造教会で聖年閉幕ミサを主司式した前田万葉枢機卿は説教の中で、聖年と万博を新しい福音宣教のチャンスと捉え、「多彩な企画で『いのち輝く未来社会への希望』に満ちた福音宣教へつなげられたと思います」と話した。ミサには約1000人が集い、内陣の右手にある、福者ユスト高山右近殉教者の聖遺物を展示した祈りの場や小聖堂にも参加者があふれた。

前田枢機卿はまた、聖年の初めも終わりも「聖家族」の祝日であることに触れ、それが「『障がい者への合理的家族的配慮』と『シノダリティ＝家族としてともに歩むこと』の実践につながった」と指摘。「2021年から続いている『シノドス＝ともに歩む教会』の進歩と完成への希望となることでしょう」と話し、最後に「去年今年 貫く棒やシノダリティ」という一句を披露した。

ミサの後にはコンサートを行い、独唱や合唱、オルガンやチェロの演奏などを教区内の有志12組が披露。最後に2025年聖年公式聖歌「希望の巡礼者」を全員で合唱し、聖年の恵みに感謝した。



聖年閉幕ミサに約1000人が集った大阪高松カテドラル玉造教会（提供＝大阪高松教区）

東京教区 聖年が終わっても 多くの人に希望をもたらす業を



聖年閉幕ミサで説教壇に立つ菊地枢機卿。壇上左から2人目がフランシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教（提供＝東京教区）

東京教区の聖年閉幕ミサは東京カテドラル関口教会に約750人が集い、ライブ配信もされた。同教区の菊地功枢機卿は説教の中で、「この一年、わたしたちは希望の光をすべての人に届けることができたでしょうか」と問いかけた。

バチカンの広場に、ボートで避難する群衆の像があり、その中に聖家族と思われる3人の姿がある。菊地枢機卿はその像を設置したのが聖年を開幕させた前教皇フランシスコであることを紹介。「今日、聖家族は、共に歩く誰かを必要としています。主ご自身がその中で、誰かの心が向けられること、そして手が差し伸べられることを待っています。人と人との心からのかわりこそが、希望を生み出すために不可欠です」と話した。そして聖年が終わっても希望をもたらす巡礼者であることをやめず、「多くの人の心に、希望をもたらす業を続けていきましょう」と呼びかけた。

ミサの最後には駐日教皇庁大使フランシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教があいさつに立ち、聖家族の主日に当たって「血縁の家族」「信仰の家族」に希望の扉が開かれているよう祈りまじょうと促した。また困難に遭い寄り添いと理解を必要としている「家族」にも広く目を向け、この涙の谷が楽園に変えられていくことを希望して歩もうと語りかけた。

国内

地震から2年迎えた能登 大みそかと元旦 被災地で巡礼

名古屋教区（松浦悟郎司教）が運営するカリタスのとサポートセンター（金沢市／センター長・片岡義博神父〈同教区〉）は、昨年12月31日から今年1月1日まで「能登半島地震被災地巡礼」を行った。各地からの参加者9人と松浦司教やスタッフを合わせ、計16人が震災から2年になる被災地を訪れ、共に祈った。

初日は、石川県輪島市を中心に被災地を視察した。
元旦午前、輪島教会（同市）で「神の母聖マリア」のミサをささげた。

主司式した松浦司教はミサ説教の冒頭、輪島教会が再建されていなかった昨年は、隣接する海の星幼稚園のホールを借りてミサをささげたことに言及。輪島教会に併設されたベース（ボランティア拠点）を通して共同体が豊かになっていくようにと、信徒たちを励ました。

同日午後は、七尾教会（同県七尾市）でミサをささげた後、隣接する聖母幼稚園の前で「ついたちの祈り、ついついの祈り」（のとサポートセンター主催）に参加した。

石川県では、今も約1万8千人が仮設住宅で暮らしている。片岡神父は日頃「出会う人の声に耳を傾けていると、それぞれが『今後、どう生きていくのか』という問いを抱



大みそかの晩、輪島教会でテゼの祈りを歌う巡礼者たち（©カリタスのとサポートセンター）



元旦の輪島教会でのミサ後に（©カリタスのとサポートセンター）

えておられる」ようで、教会が輪島と七尾に「いる」ことの意味深さを感じていると話した。

巡礼者の一人、高橋由依さん（27／東京・府中教会）は、「（巡礼では）輪島の朝市通りなどの町が（復旧作業で）整ってきているのを見ることができました。でも周りには崩れたままの建物もあり、（地域の方々には）気持ちが追い付かないところがあるだろうと想像しました」。

また、輪島と七尾で各教会の信徒たちと共にささげたミサでは、「希望のともしび」が心にともるよう、共に祈った。この体験や、祈りの中で「神様が共におられる」と感じられた体験が心に刻まれたと、高橋さんは話した。



記事全文

「のとのとなりに」キャンペーン

カリタスジャパンは、震災から2年を迎え、「カリタスのとサポートセンター」を応援する、「能登地震災害支援キャンペーン - のとのとなりに」を実施している。

このキャンペーンは、応援方法として①ボランティア参加②グッズを買って応援③募金（カリタスジャパンにて受付中）」を挙げ、それぞれについて情報提供している。

キャンペーン詳細はこちらから →



日韓の教会が支援する 「長生炭鉱」遺骨収集事業 首脳のDNA鑑定合意で前進

日韓両国の首脳は、1月13日の首脳会談で、山口県宇部市の「長生炭鉱」水没事故の犠牲者について、遺骨のDNA鑑定を協力して行うことで合意した。昨年11月の日韓司教交流会を契機として日韓の司教団がそれぞれ寄付することを決めた、同事故犠牲者の遺骨収集事業を行う市民団体は、両首脳の合意を歓迎。遺族への遺骨返還実現に向けて前進していると、1月20日、政府関係者との面会後に開いた記者会見で語った。

日韓の司教団が支援するのは、太平洋戦争中の1942（昭和17）年、長生炭鉱の水没事故で犠牲となった朝鮮人労働者136人を含む全183人の遺骨を収容し、遺族に返還することを目的に活動している「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」（以下、「刻む会」）。「水非常」とは、炭鉱用語で水没事故を指す。

「刻む会」がこの日、政府との面会で目的としていたのは、DNA鑑定を誰の責任で行い、どのようなスケジュールをめぐり犠牲者と遺族のDNAの照合が進むのか、また合意の中身を確認することだった。



遺骨が眠る海から突き出した長生炭鉱の二つの排気口（ピーヤ）

警察庁関係者は、鑑定のスケジュールは決まっていないが、日韓で協議を進めていること、また今後、新たな遺骨が収容されることも踏まえ、「そう遠くない時期に（鑑定は）できると思う」と回答した。

外務省からは、DNA鑑定の情報共有についても、韓国側との協議の中身についてははっきりするまで言及できないなどとする回答があった。

同会事務局の上田慶司さんは、政府側からの回答は満足のものではなかったとしながらも、初めて前向きな姿勢が見られたと評価。前回の記者会見では、高齢化が進む遺族に「一刻も早く遺骨をお返しするために」刻む会独自の鑑定に踏み切る可能性も示していたが、日韓首脳の合意を信じ、撤回すると表明した。

また昨年、北朝鮮で犠牲者の遺族取材した記者が会見会場で行った現地報告を受け、上田さんは北朝鮮の遺族を「置き去りにすることなく」、遺骨返還を全ての遺族と共に、よりスピード感を持って進めていく意向を示した。

同会共同代表の井上洋子さんは会見で、犠牲者の遺骨が事態を前に進めてくれたと、喜びも表現した。

2月3日から同月11日まで、海外から迎えたダイバーにより遺骨の集中捜索が行われる。



記者会見で話す「刻む会」代表の井上洋子さんと、事務局の上田慶司さん

刻む会では、これまでの潜水調査で確認された遺骨4体のうち、今回の捜索初日に頭蓋骨2体、残りの日程で4体の遺骨を全て収容できる見込みという。

国内

カトリック大学のこれからを語る

日本カトリック教育学会特別活動Ⅲ研修会 最終回

日本カトリック教育学会の研究グループ・特別活動Ⅲ（同学会担当理事／川野祐二エリザベト音楽大学理事長）は、大学をはじめとするカトリック学校が、建学の精神を教職員にどのように伝え、学校運営に生かしているのかを情報共有し、共に考える研修会を2023年からこれまでに5回開いてきた。その最終回となる研修会が1月10日、東京・千代田区のイエズス会の岐部ホールで開かれ、会場とオンライン合わせてカトリック学校の教職員ら約50人が参加した。

これまでの5回の研修会で建学の精神について語った鳥越政晴神父（サレジオ修道会／サレジオ学院中学校・高等学校校長）、星野昌裕氏（南山大学総務・将来構想担当副学長）、吉岡昌紀氏（清泉女子大学元理事長）、川野祐二氏が活動の振り返りやその後の取り組み、これからの展望について話した。

特別活動Ⅲの運営委員で、清泉大学教授の稲葉景さんは「カトリック大学の教職員などが集まって、建学の精神に基づいた運営についてざっくばらんに話す機会は今まであまりなかったと思います。この3年の間にもカトリック大学の募集停止や共学化、法人合併など大学を取り巻く環境に大きな変化がありました。今は各校だけではなく、全体で連携しながらカトリック大学を守ることが必要です」と、3年間の活動を振り返った。



講演後の質疑応答。左から山岡三治神父（イエズス会）、星野氏、鳥越神父（サレジオ修道会）、吉岡氏、川野氏（提供＝主催者）

特別活動Ⅲは、来年度に研修会のまとめとなる報告書を作成する予定。



記事全文

ハンセン病への偏見が生んだ「菊池事件」
再審開始求め 映画上映会

ハンセン病患者とされた男性が殺人の罪に問われ、一貫して容疑を否認しながら死刑となった「菊池事件」。その再審の可否が1月28日に熊本地裁で示されるのを前に、事件を基に作られた映画の上映会が各地で開かれている。

東京・千代田区の麴町教会でも1月10日に行われ、会場は165人の参加者で埋まった＝写真。映画上映と関係者の話は、ハンセン病への偏見と差別が事件を生んだことを改めて浮き彫りにした。主催は「菊池事件の再審実現をめざす東京連絡会」。「カトリック東京正義と平和の会」「高麗博物館 ハンセン病と朝鮮人研究会」などが共催した。



菊池事件は1950年代初め、熊本県北部の村で起きた。村役場の職員だった男性が殺害され、その職員によって熊本県にハンセン病と通報された同村のFさんが容疑者に挙げられた。裁判は国立ハンセン病療養所・菊池恵楓園^{けいふう}内の隔離された場で行われ、十分な弁護活動が行われずに死刑が確定。62年に執行された。この裁判については、熊本地裁が2020年、「法の下

の平等」を定めた憲法14条などに違反すると判断を下している。上映された映画『新・あつい壁』（2007年製作）には、菊池事件関係者の証言を基にした場面が数多く登場する。上映会では監督、弁護士らが事件について語り、最後に、現在も差別に苦しむハンセン病患者の家族が訴えた。「ハンセン病だったことを堂々と言える社会にしたいのです。ハンセン病（を巡る問題）を風化させてはならないと思います。再審請求が認められることを祈りつつ、『思いよ届け』と訴え続けます」



記事全文

戦後 浦上教会の復興に奔走
中田藤太郎神父の生涯を書籍に

長崎県平戸市で薬剤師として働く近藤司さん（44／平戸ザビエル記念教会）は昨年10月、戦後の復興期に浦上教会（長崎市）主任司祭として奔走した中田藤太郎神父（1910～99年／フランススコ会）の生涯を書籍にまとめた。タイトルは『道のさなか 中田藤太郎神父様を想う』近藤司さん（平戸ザビエル記念教会発行）＝写真下。

中田神父は近藤さんの祖父の叔父に当たる。1910年に平戸で生まれ、26歳で長崎教区司祭として叙階された。終戦の年の12月に浦上教会の主任司祭となる。翌年の12月には、浦上教会の仮の新聖堂が献堂された。病院や児童養護施設の設立にも奔走し、さらには「家族の再建」にも取り組み、300組余りの結婚を成立させた。53年にフランススコ会へ移籍。埼玉や東京でも司牧した。

中田神父が最期まで大事に持っていた1通の手紙がある。差出人は「中ニ X」。当時、北浦和教会（埼玉県）の主任だった中田神父が受け取ったその手紙には、教会に週に何度か10円玉が包まれた鼻紙が置いてあると思うがそれは落とし物ではないこと、自分の家は社長の家でも裕福でもないが、今自分はとても幸せなので少しずつでも貧しい人のために寄付を続けたいという思いがつつられていた。

「（中田神父は）感動したんだろうと思います」。どんなに「小さい人」であっても誰かの希望になることを証しする手紙を受け取った中田神父は、「ものすごくうれしかったのではないのでしょうか」



記事全文

地域住民と恒例「餅つき交流会」
茨城ダルク

昨年12月28日、茨城県結城市の施設、上山川就業改善センターで、「茨城ダルク餅つき交流会」が催された。主催した茨城ダルク（同市上山川）は、民間の薬物依存症回復施設。真冬の青空の下、ダルクの30人余りと支援者、近隣の住民ら80人を超える人が集い、交流した＝写真。

コロナ禍の時期を除いて毎年開催されている餅つきで、今回はもち米約60キロを用意した。ダルクの人らが羽釜で蒸し、臼の中に移すと、他のメンバーら有志が「きね」でついていく。

きねを臼の縁に振り下ろしてしまったメンバーがいれば、「そこ、餅ないよ！」と間髪を入れず突っ込み、を入れるメンバーもあり、和やかな笑いが広がった。臼を囲んでにぎわう参加者を、日なたぼっこをしながら眺めるダルクのメンバーや、おしゃべりを楽しむ参加者の姿もあった。

茨城ダルク施設長の水ノ江淳^{あつし}さんによれば、当初は地域住民による反対運動などもあったが、徐々に受け入れられるようになったという。そして「ダルクとつながろうとしてくれた人たち」と共に始めたのが、この餅つきだった。参加者の一人（70代）は、こう話す。

「今日は、聖家族の日。同じ釜の餅、を食べたみんなそろって、目に見えるかたちで神様の手の中にいる共同体だな、聖家族だなあと感じました」



記事全文

主日の福音解説

2月1日（年間第4主日）
マタイ 5・1－12a

2月8日（年間第5主日）
マタイ 5・13－16

心の貧しい人々

聖書は万人に向けられた神の言葉である。ただし、靈感のみならず人間の参与もその成立に関わっているため、そこに地理的および歴史的文化的制約が反映されるのは当然である。マタイは、直接の読者としてはユダヤ人キリスト者を想定して福音書を書いたと言われている。マタイ本人もユダヤ人であったから、読み手と書き手との間には旧約聖書の世界という



の間には旧約聖書の世界という共通理解が前提されていたことになる。とりわけ、二者間に介在した共通の前提が色濃く表れているのは次の一文であろう。「イエスはこの群衆を見て、山に登られた」。マタイとは異なる背景かつ言語世界に住む人間にとっては必ずしも明瞭ではないが、当時の読者にはあうんの呼吸で伝わったはずの一つのイメージがここにある。それは、旧約聖書に登場する人物で同じく山に登ったモーセの姿である。マタイは「(イエスが) 山に登られた」と書けば、同時代の読者が自然とそこにモーセの姿を重ね合わせて読むだろうことを分かって意図的にそう書いたのである。だとすれば、後に続くイエスの言葉は単なる教え以上の意味を持つ。すなわち、シナイ契約が根底にあると前提するならば、「八つの幸い」は「十戒」にも相当するキリストの教えの核心ということになる。

ところで、山上の説教は次の一文で始まる。「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」。ここで「貧しい人々」と訳されているギリシャ語のプトコス^{プトコス}は聖書を離れた文脈においては経済的に貧しい者を意味し、物乞いをしなければ生きていけない人々のことを指す。ただし、「貧しい」の意味をマタイが前提しているところのヘブライ語の文脈の中で理解しようと努めるならば、「心の」が仮になかったとしても、一語で「神の前に貧しい」という解釈も可能になる。マタイはユダヤ人であったから、ギリシャ語を使用する際にもヘブライ語のニュアンスで使っていたと推察できるからである。つまり、第一義的には極貧を意味するプトコス(＝貧しい)をマタイは「神の前に自分が無力で取るに足りない者であることを認めている」という意味でも使うことができたのではないかという解釈の可能性である。それに「心の」を付け加えたのは、可能性として内包する「神の前における貧しさ」をより明確にし、曖昧さを排除する意図があったからではないか。

そして、「幸いである」も、聖書が伝統的に伝えてきた神の前における「幸い」を意味する。ギリシャ語の原文では形容詞のマカロス(＝幸いな)が一連の文の冒頭に置かれている。この語順は詩編1を想起させる。「いかに幸いなことか、(中略) 主の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむ人」(1・1～2)。ここで文頭に来るのがヘブライ語のアシュレー(＝幸い)でありギリシャ語70人訳では真福八端の始まりと同じマカロスが使われている。こうした語順に、さまざまな幸いが世にあまたある中でこれこそが幸いだという詩編作者および福音記者マタイの矜持^{きやうじ}を垣間見る思いがする。神と共に生きる幸い、神の前にこうべを垂れる幸いを生涯かけて学ぶ者でありたいと願う。

くまがわゆきのり
(熊川幸徳神父／サン・スルピス司祭会)

塩の秘密

イエス様が今日言われた「塩」は、わたしたちの食生活において非常に重要なものです。「塩」がなければどんな料理を作ってもおいしくないからです。そのため、わたしたちは「塩」と言うと、その味だけに注目しがちです。今日はその塩の秘密について考えたいと思います。

イエス様はこう言われます。「塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう」。塩には塩気があるから味を付けることができるという意味でしょう。それでは、その塩味はどうやって出るのでしょうか。

塩が塩味を出すのは溶ける瞬間です。塩は溶けて自分の結晶体の形を失わなければ塩味を付けることも、塩気があると認められることもないのです。これが塩の秘密です。

わたしたちが常に見ている塩は白い粉の形になっていますが、それは塩の結晶体です。そしてそれが結晶体のまま溶けないとしたら、味がしないので、どこにも使うことができない無駄なものになります。しかし、塩は溶ける性質を持っているために、どんな料理にも使うことができるのです。

塩が溶ける性質を持っている理由は海から生まれたからだと考えられます。それなのに、なぜイエス様はわたしたちを「地の塩だ」と言われたのでしょうか。

それは、今は地上にいるわたしたちが、最初にどこから来たのかを忘れてはならないと教えるためです。わたしたちは皆、神から生まれたのです。塩が溶けて味を出すように、わたしたちも自分自身を溶かして塩味を出すのです。

韓国にいる時、わたしは「塩の人形」という歌が好きでした。ある詩人の詩にメロディーを付けた歌ですが、その内容はいまだに心の中にとどまっています。「海の深さが知りたくて、海に入った塩の人形のように、君の深い傷が知りたくて君の血の中に飛び込んだわたしは、塩の人形のように何も残らず完全に溶けてしまいました」



わたしたちは地の塩です。世の中に塩気をもって塩味を出すことができるのは、ただ塩一つだけです。それも溶けなければ味は感じられません。

わたしたちが神の子だと言いながら、その姿を日常生活の中に、人間関係の中に溶かさなければ、わたしたちは塩気がない、無味の白い粉でしかないと思います。

(ダニエル・キム・ドンウク〈金桐旭〉神父／韓国殉教福者聖職修道会)

主日の福音解説

2月15日（年間第6主日）
マタイ 5・17－37 または
5・20－22a、27－28、33－34a、37

ごめんと言うには！

学生だった時の話です。ほんの軽い気持ちでしたが、わたしが調子に乗り過ぎてしまい、やさしい友達を憤怒させてしまったことがあります。

「しまった、また調子に乗り過ぎた…。時すでに遅し。真っ赤になった彼の顔、つらそうな目でわたしを見ていました。あれを思い出すと、今でも身震いします（-_-;）。激しい後悔、家に帰り、



「どうしよう…。別の友達にすぐに電話。友達は「謝った方がええんちゃう」と。そんなことは分かっているんです。謝りたいんです。しかし、人は怖いから謝れないんです。思いつくだけの謝らないで済む言い訳を挙げました。「とにかく謝り」。そのことばにはわたしと怒らせてしまった友達を

気遣うやさしさが込められていました。

今日のイエス様も同じです。あなたたちのことはもう全部分かっている。仲たがいするお互いを気遣ってくださり、わたしたちにできる仲直りをしなさいと、やさしさを注いでくださっています。

次の日は教会法の試験でした…。記憶に鮮明に残っています。教室に入るとみんないて、楽しそうに試験の準備をしていました。わたしは誰にも声をかけずに教室の隅の席に独り座りました。ほんとに恥ずかしかった。そして怖かったです。試験中ずーっと、どうやって謝ろうかと苦しんでいました。試験内容は何も覚えておりません（；▽；）。試験が終わり彼を呼び止めました。

「ほんとごめん」

自分中心に考えると今日の聖書箇所はつらい内容です。でも、苦しんでいる人々を守るために読むのなら福音となります。

わたしたちの目はイエス様を見るために、手はイエス様、ご聖体を受けるため。

「あなたはいつくしみとまことに満ちた方、わたしたちがあなたに背いたとき、いつも回心を呼びかけ、ゆるしのみ手を差し伸べてくださいます。わたしたちはその声に耳を貸さず、あなたの導きに従いませんでした。それでも、あなたはわたしたちを死の闇に見捨てることなく、人類が新しいきずなで結ばれて、一つの家族となるように、御子イエスを十字架上の死に渡されました」（『ミサ典礼書』ゆるしの奉献文Ⅰより）

十字架上のイエス様がわたしたちを見てくださっていることを知り、苦しむ人々の中にイエス様を見て、共に手を合わせる。わたしたちの目と手は、イエス様と人々と共に歩むための信仰の目と手です。

見捨てずに「謝り」と言ってくれた友達。

「もうええよ」

勇気を出して謝ったわたしに返ってきたことばです。親友たちができた瞬間でした。

（寺浜亮司神父／福岡教区）

2月22日（四旬節第1主日）
マタイ 4・1－11

神のことばに信頼する

ヨハネから洗礼を受けたイエスは、宣教活動を開始するに当たって荒れ野で準備の期間を過ごします。その間、誘惑と向き合いますが、ことごとく退けたというのが本日のマタイ福音書の内容です。

「イエスは悪魔から誘惑を受けるため」と荒れ野へ向かった理由が説明されています。神への信頼から人を引き離そうとする力や働きのことを聖書では悪魔と表現しています。しかし、荒れ野へとイエスを導いたのは神の霊です。この場面は悪魔が実際に現れて誘惑したというよりも、私たちが経験する、父である神に対する信頼を壊そうとする思いがイエスの心にも湧き上がってきたということかもしれません。誘惑を退けるイエスを通して、神のことばに信頼する「神の子」の姿が明らかにされています。

40日間、断食を行って空腹状態のイエスに最初の誘惑が訪れます。「神の子なら、石をパンに変えたらどうだ」。神の子としての力を自分のために使いたいという誘惑です。イエスは「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と言って誘惑を退けます。これは申命記からの引用です（8・2－3参照）。委ねられている力を自分のために利用しないのが神の子です。

二つ目の誘惑は神を試すことについてです。最初の誘惑と同じように、ここでも神の子ならと言っています。神の子なら神が守ってくれるはずだとそそのかしています。「神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える」。これは詩編のことばです（91・11－12参照）。イエスは「あなたの神である主を試してはならない」と言って誘惑を退けます。申命記からの引用です（6・16参照）。神を試すことなく、神が求める道を歩むのが神の子です。

偶像崇拜へのいざないが三つ目の誘惑です。神ではないものを神であるかのように頼ろうとする行為が偶像崇拜です。「退け、サタン。あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」と言ってイエスは誘惑を退けます。これも申命記からの引用です（6・13参照）。神への信頼を忠実に生きるのが神の子です。



準備の期間を終えたイエスは、神の力に満たされて宣教活動を開始していきます。誘惑を全て神のことばによって退けたことから分かるように、イエスの宣教活動全体を支えたのは、言うまでもなく神のことばへの信頼です。

（立花昌和神父／東京教区 カットは全て高崎紀子）

文化

『日々の黙想 今ここに気付く
150の祈りと瞑想』
キリスト者のためのマインドフルネス

臨床心理学の専門家でありクリスチャンであるアイリーン・クレイゲルが書いた、マインドフルネス瞑想の実践書。著者によれば、マインドフルネスとは、さまよう心や落ち着かない体など、心身の動きをただ「観察する機会」を指す。

本書に収録された150の黙想は、いずれもみことばと、みことばに関する文章を読み、3分程度でできるマインドフルネスの実践へと導くもの。

この瞑想と共通した方法を使う「キリスト教的ヴィパッサナー瞑想」の指導者・柳田敏洋神父(イエズス会)は、マインドフルネスを「イエスが教えたアガペの愛」で「今ここ」に気付く、「無条件の愛を心に育む優れた方法」と表現する。新書版を一回り大きくしたサイズで360ページ。2640円(税込)、日本聖書協会発行。



←カバー

『思い出に感謝して
わたしのエンディングノート』
これからの人生を丁寧に整える

キリスト者のためのエンディングノートが、女子パウロ会から発行された。エンディングノートとは、自分の身に万一のことがあったときに備え、自分の思いや連絡先、必要な手続きについての情報をまとめておくためのもの。

万一の場合の連絡先など実用的なページに加え、洗礼名や所属教会名を記載するページや、キリスト者のための「終末医療に関する要望書」が備わっている。葬儀・通夜関係のページには好きな祈りや典礼で流してほしい聖歌も書き込むことができる。自分の人生を振り返り、「思い出に感謝」しながら、大切な人を思って少しずつ、丁寧に書き進めたい。

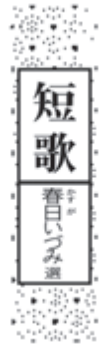
B5判。針金とじてフラットに開き、書き込みやすい。ビニールカバー付き。1100円(税込)。



天窗のステンドグラス透り抜け戦禍に届け平和の祈り
出刃持ちていとも安けく新巻の鮭を捌きし祖母の指よ
我が足を痛めしよりは町なかの杖つく人の多きに気付く
昼寝から起きた父見て名付けたる「ステテコサウルス」母と笑えり
失せ物はあげたと思え母の言九十歳得て宝言となり
アメリカのホームドラマを思い出しアップルパイを焼く日曜日

岡山 宮崎 清子
横山 菊地八重子
東京 藤木倭文枝
東京 植竹 雄太
東京 向井美和子
東京 印出美由紀
川崎 三鷹 関 静男
立川 市川 利次
三鷹 関 静男

聴衆の中に写りしわが背の見覚えのなき老いに見入りぬ
【評】演奏会場の写真だろうか。聴衆の中にふと自分の後ろ姿を見つけた。被写体としての意識のない無防備な姿を「見覚えのなき」と表現し、「老いに見入りぬ」にわが老いをまざまざと見せつけられた衝撃を浮かべている。
ネフィリムの遺伝子色濃く保ちつつ黙示の中に頂く希望
疾風に落ちし椿のくれなゐを踏まじとそろそろ少女歩めり
「押し買ひ」の電話の掛け子に押し売りす「あなた自身を大切にね」と



毎月5日まで(必着)、はがきに3首以内。1人1枚を厳守。氏名に振り仮名を明記。送り先は、本紙1面に記載。下記QRコードからオンライン投稿も可。



俳句
稲畑廣太郎選

毎月5日まで(必着)、はがきに5句以内。氏名に振り仮名を明記。送り先は本紙1面に記載。下記QRコードからオンライン投稿も可。



◎記念ミサ石路の花咲く札の辻
【評】殉教の歴史を偲び石路が供華のように咲く
◎日韓の司教の絆冬紅葉
【評】日韓の司教同士の絆を冬紅葉が祝している
初鴨や夕べの羽をたたみをり
青年の聖なる無口新松子
大空に龍を描くや渡り鳥
唯一つわれら導く冬の星
片付けも夜なべのうちと励みけり
冬日燦神のみ言葉告げるかに
いわし雲静かに溶けて空蒼し
クリスマス明日を見つめ空を見る
秋風やコキアは赤く染められて
冬桜詠み人しばし立ちつくす
十字架に一字の雲冬に入る
北風が風紋描く神秘かな
神無月主は活く我もいまを生く
屋久島の息づく森に冬の靄
極月の公園人を拒むかに
さいたま 豊中 岩田 都世
調布 古閑 和則
福岡 木本 敬子
立川 中村 克久
各務原 安江 郁子
甲府 穴水 公一
春日井 遠藤 晶子
神戸 涌羅 由美
吹田 野村 愛子
佐世保 川口 栄子
草加 長谷部 禎子
東京 脇谷 善之
神戸 内田 泰代
大阪 酒井 湧水
川崎 吉田千津子

きょうをささげる(教皇による祈りの世界ネットワーク) 2月

【教皇の意向：難病の子どもたち】

難病の子どもたちとその家族が、必要な医療と支援を受けることができますように。そして、力と希望を失うことがありませんように。

【日本の教会の意向：信仰の証し人】

信仰の証し人の取り次ぎを願って祈ります。多くの苦難の中にあっても深い信仰を保った日本の殉教者に倣い、より一層神に信頼と希望をおくことができますように。

乳幼児期に発症し筋力低下や呼吸不全を生じる脊髄性筋萎縮症、白血病や脳腫瘍などの小児がんといったさまざまな難病を抱える多くの子どもたちがいます。子どもの

難病の場合、確定診断までに時間がかかったり、高度医療や高額医療のために適切な医療にあずかれなかったりする場合もあり、子ども自身と家族が多くの負担や苦しみを抱えることになります。また国別の格差も大きく、中低所得国では十分な医療や支援にあずかれない現実もあります。どの一人の子どもも神から限りなく愛されており、苦しみにある子どもから神の慈しみが離れることはありません。難病を抱える子どもたちと家族のために国際的な医療協力や公平な医療支援が整備され、何よりも子どもと家族が希望を失うことのないよう周りの人々が支え、負担を分かち持つ愛のサポートが広がるよう祈りましょう。

*

2月5日は日本で最初に列聖された日本二十六聖人の殉教記念日です。そこには64歳のヤコブ喜喜から12歳の最年少のルドビコ茨木までが含まれていました。その当時の社会情勢や政治状況に左右されたところもありますが、皆、苦難のただ中であっても神への信頼を持ち、この世を超える神の命に希望をかけました。彼らとその後に続く多くの殉教者の信仰によって日本の教会は支えられています。困難が続く現代社会の中で、私たちも日本の殉教者に倣い、愛の神の中に信頼と希望を固く持ち続けることができるよう祈りましょう。

計 報

栄田妙子修道女（聖心侍女修道会） 2025年9月10日、神奈川県鎌倉市内の病院で心不全のため逝去。91歳。1933年サハリン（樺太）生まれ。55年同会入会。60年初誓願。66年終生誓願。14



歳で樺太から秋田に移り、入会後は同会日本管区のほとんどの修道院で、家事、受付、会計などに従事。教会での宣教にも携わった。寡黙で口数は少なかったが、優しく忍耐強く、いつも静かにほほ笑んで周りに気を配り、必要なすぐに助けの手を差し伸べることができる人だった。ブラジルにも約4年間住んだ。61歳でのブラジル行きは、「自分でも何かお役に立つなら」という、宣教者としての熱意に駆られたものだった。ポルトガル語は話せなかったが、母の心で地域の人々に寄り添い、良い証しとなった。高齢になっても、酸素ボンベを付けた車いすで食器の準備、受付、修道女たちの菓の配布、ロザリオの祈りの先唱等、最後まで謙虚に神への愛と、周りの人々への奉仕に生きた。

大山ヨシエ修道女（シヨファイユの幼きイエズス修道会） 2025年11月23日、熊本市内の介



護医療院で胆管炎のため逝去。93歳。1932年長崎県生まれ。初誓願宣立後、兵庫の同会仁川本

部で務めた後、当時の和歌山信愛女子短期大学附属中学校・高等学校（和歌山）で3年間、大阪信愛女学院中学校・高等学校（大阪）で10年間制服担当として奉仕した。75年から同会福岡修道院に派遣され、6年間は院長を務め、サン・スルピス大神学院で裁縫や受付の担当としても尽くした（以上福岡）。その後、長崎と福岡の同会運営の学校や東京・世田谷区の暁寮（学生寮）の受付、裁縫等で若い人たちに寄り添いながら奉仕した。89年から11年間は、修道女を志す志願者の係を務めた。2007年からは院内で奉仕していたが、11年からショートステイを利用しながらの療養生活となった。25年1月から熊本の聖母の丘グループホームに人所し、「明るくてよくお手伝いをしてくれる」と周囲に喜ばれていた。手先が器用で茶目っ気のある楽しい性格だった。王であるキリストの祭日に、静かに御父のみもとに旅立った。

川内キク子修道女（純心聖母会） 2025年12月5日、老衰のため逝去。95歳。1930年長崎県生まれ。46年、被爆直後の大村にあった仮校舎の純心高等女学校に志願生として入学。その時の修道女と志願生は再建の働き手として懸命に働き、長崎市文教町の学



園を再興することになった。54年初誓願。63年終生誓願。初誓願後は2003年の引退まで幼児教育一筋に生きた。1978年から25年間は園長として、その後は院長として伊王島修道院で奉仕した。2022年にロザリオの聖母修道院に異動し、入退院を繰り返しながら病床の苦しみをささげ尽くした（以上長崎）。同会初代会長江角（えずみ）ヤスの希望に満ちた姿、人を思う気持ちを生涯忘れず自分の生き方として大切にしていた。その姿に倣って苦労をいとわず、ユーモアに満ちた性格で、周りを温かくした。

尾下（おした）サヨ子修道女（純心聖母会） 2025年12月13日、がんのため逝去。80歳。1945年長崎県生まれ。62年に川内（せんだい）純心女子高等学校（鹿児島）に志願生として入学。67年初誓願。77年終生誓願。初誓願後は東京や鹿児島の同会が運営する学園の事務職を務めた。80年に長崎原爆ホームに介護職員として勤めていた時、創立者江角（えずみ）ヤスの介護を手伝う機会に恵まれた。がんで苦しみをささげる創立者の姿を目の当たりにして、末期の状況にありながら人間味豊かな、温かい愛に触れることができたことを文書に残している。2025年、高齢者や病気を持つ姉妹が集まるベタニア修道院に移り、自身も持病を抱えながら姉妹たちへの奉仕に努めた（以上長崎）。今年11月初めに腹痛を訴え診察した結果、がんが腹部中心に広がり手術も不可能な状態だった。12月4日にホスピスに移り自分の最期を受け止め、修道会に感謝を述べながら病の苦しみをささげ尽くし、静かに御父のみもとに召された。



南昌子修道女（聖心侍女修道会） 2025年12月17日、神奈川県内の病院で心不全のため逝去。89歳。1936年中国・上海生まれ。戦後日本に戻り、61年同会入会。63年初誓願。71年終生誓願。入会後は神奈川県・横須賀市と東京のインターナショナルスクールの幼稚園で教えた。その後、フィリピン・マニラの幼稚園で教えた。帰国後は、東京・品川区の女子大学生の寮の係を経て、広島・三原市の保育園で幼児教育に携わり、神奈川県・鎌倉市の清泉女学院で英語や宗教を担当した。生来明るい性格で、多くの人々との関わりを通して、長く続く親しい関係を築き、慕われた。若い頃は歌が上手で絶対音感を持っていた。晩年は鎌倉の修道院に属したが、長年の腰痛が悪化し、車いすを使う生活になった。亡くなる前は他の病も併発し、身体的な苦しみは大きかったが、忍耐強く、痛みや苦しみと闘い、最後まで生きる希



望を失わなかった。

西本フサ子修道女（シヨファイユの幼きイエズス修道会） 2025年12月24日、兵庫県の同会仁川本部修道院で老衰のため逝去。96歳。1929年大阪府生まれ。初誓願宣立後、京都、福岡の養護施設で事務職を、京都では施設長としても子どもたちのために尽くした。また、大阪、和歌山、熊本の信愛女学院で事務・会計として誠実に奉仕した。その後、東京・世田谷区の暁寮（学生寮）では寮長を務め、若い人たちとの関わりを大切にしていた。2009年からは仁川本部修道院で療養生活となったが、いつも頓知の効いた話しぶりで皆を笑顔にしていた。



阿部幸子（さちこ）修道女（殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会） 2025年12月30日、北



海道石狩市内の同会修道院で老衰のため逝去。94歳。1931年北海道生まれ。62年同会入会。65年初誓願。71年終生誓願。初誓願宣立後の16年間、月形町の新墾（にいほり）藤学園、札幌の藤女子大学・短期大学及び北見の北見藤女子中学・高等学校で事務の仕事をした（以上北海道）。青森の特別養護老人ホーム「藤の園」で8年間事務職に就いた後、月形「藤の園」特養部・養護部では園長として15年間働いた。

告知板

■東 京

▶初金の祈りの集い（聖体賛美式と黙想～聖歌隊の歌を聴きながら） 2月6日（金）午後7時～8時、麴町教会主聖堂。司式＝森晃太郎神父（イエズス会）。奉唱＝初金聖歌隊（指揮＝大内葉子）。電話 03-3263-4584 麴町教会

▶高田三郎作品によるリヒトクライス記念演奏会 2月11日

（水・祝）午後1時45分、すみだトリフォニーホール（墨田区）。出演＝鈴木茂明（指揮）、コーロ・ソフィア（合唱）他。S席3,000円、A席2,000円、B席1,000円。詳細はリヒトクライスウェブサイト（<https://lichtkreis.amebaownd.com/>）参照。✉ lichtkreis @ p02.itscom.net リヒトクライス実行委員会

番 組

ラジオ心のともしび

（朗読・坪井木の実）

2月の放送日と執筆者 2日（月）今井美沙子・3日（火）松本准平（じゅんぺい）・4日（水）熊本洋（よう）・5日（木）村田佳代子・6日（金）森田直樹・7日（土）コリー・ダルトン・9日（月）松浦信行・10日（火）岡野絵里子・11日（水）中井利巳・12日（木）三宮麻由子・13日（金）中島貴之・14日（土）堀妙子・16日（月）竹内修一（おさむ）・17日（火）山本久美子・18日（水）萩原久美子・19日

（木）服部剛（ごう）・20日（金）片柳弘史・21日（土）山本ふみり・23日（月）許書寧（きよ・しゅにん）・24日（火）越前喜六・25日（水）崔友本枝（ちえー・ともえ）・26日（木）こいずみゆり・27日（金）古川利雅（以上テーマ「隣人愛」）・28日（土）谷口恵美（めぐみ）（「思いやり」）。

ホームページ（下記QRコードでアクセス可）では24時間視聴可能。詳細は電話 075-211-9341。



訂正 前号6面「前田枢機卿、刑務所で洗足式」の記事中、荻喜代治神父様のお名前のルビに誤りがありました。正しくは「きよはる」です。また7面の「ファシリテーター養成連続セミナー 『霊における会話』を実践」の記事に別の写真を掲載しておりました。おわび致します。